



Title	スワヒリ＆アフリカ研究 第36号 編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	スワヒリ＆アフリカ研究. 2025, 36
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/100842
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

✎ 編集後記 ✎

本誌 36 号には 9 本の論考を掲載することができました。研究室の紀要というのは、だいたい原稿が集まらないもので、ほうぼうに投稿をお願いしたり、「身内」の原稿をかき集めたりするものですが、今号は、天から天使の羽が舞い降りてきたのかと思うほど、はらはらりと投稿原稿が寄せられ(まさに、こちらにとっては天からの恵みのようでした)、150 頁を超える厚さ(これが目標!?)になりました。ご投稿いただいた皆さまには、弊誌を論考公開の場として選んでいただいたことに、心から感謝いたします。

また、査読の労をとってくださった皆さまにも、心よりお礼申し上げます。『スワヒリ&アフリカ研究』の編集担当というだけで、恩も義理もない人からの(しかもメールでの)依頼に快く対応してくださった御恩は一生(!?) 忘れません。また、編集担当者にとって、査読コメントを読ませていただけるのは大いなる役得です。専門家の知識に触れ、またその視点がどういうところにあるのかを知ることができ、さらに、そのコメントに応答して原稿が書き換えられ、彫琢されていく様子を見るのは、何ものにも代えがたい喜びであり、楽しみでもありました。

また今号は、新しい掲載分野として「教育実践報告」を設け、仲尾周一郎氏による「バリ語概説」を掲載しました。仲尾氏が大学で行った講義がまとめられたもので、南スーダンのバリ語の言語特徴について、一般言語学の視点や他の言語との比較などを通して、分かりやすく紹介されています。バリ語は、「南スーダン界限」では比較的大きく、有名な言語のようですが、門外漢にはまったく未知の言語です。それを、一般向けに、いわゆる「外国語」紹介として解説されていて、アフリカの言語に関心をもつものにとっては、大変興味深い論考となっています。

どのような形であれ、本誌に掲載する論考が、アフリカに対する知見を広め、またその分野になじみのない人の興味をひき、関心をかきたて、アフリカの知的世界への導きとなれば、それは望外の喜びであり、また弊誌の存在価値そのものであります。アフリカ研究を志す皆さまとともに、今後も弊誌の活動を継続していきたいと、変わらぬご支援、ご協力、ご投稿のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

(2025 年 3 月 4 日 K)

投稿・問い合わせアドレス: swahiliandafrica@gmail.com

大阪大学機関リポジトリ OUKA (Osaka University Knowledge Archive) にて公開中

2025 年 3 月 20 日発行

スワヒリ&アフリカ研究 第 36 号

発行 大阪大学大学院人文学研究科外国学専攻 スワヒリ語研究室

〒562-8678 大阪府箕面市船場東 3-5-10

編集 小森淳子、竹村景子、宮崎久美子

印刷 株式会社アイジイ 〒531-0072 大阪府大阪市北区豊崎 4-6-3

ISSN 0915-8758